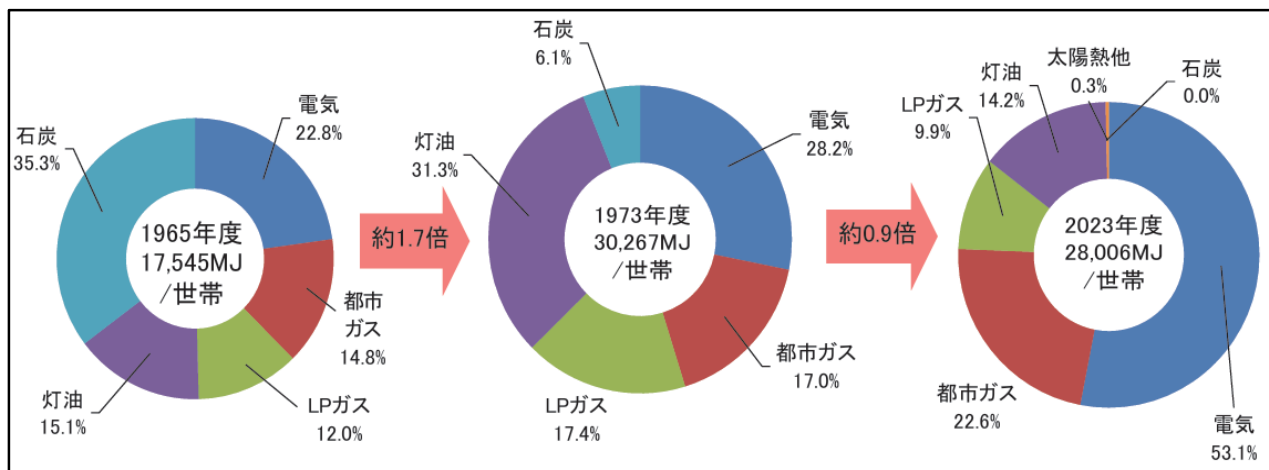


Ⅳ-1-③家庭部門におけるエネルギー消費の推移(エネルギー源別)

1965年から石油ショックがあった1973年の間については、全体消費量が急増しています。内容としては、石炭消費は急減しつつも、それ以外のエネルギーは増加し、特に灯油は3倍以上に急増しています。

2023年の全体消費量は石油ショック時に比べ減少傾向にあります。内容としては、灯油とLPガスが減少しつつ、電気が急増していることが分かります。

このように、家庭におけるエネルギーの消費は時代によって大きく変化してきました。



出典: エネルギー動向(2025年6月版)第12-2-6

エネルギーと私たちの暮らし